

担当教員 菊澤律子				
開始時期 後期	開講期間 半期	科目番号 20DCSd01	授業形態 講義・演習	単位 2
キーワード 言語類型論、記述言語学		対象学年 1,2,3 学年	聴講・参加資格 専攻	
科目名称：日本語 比較言語研究				
科目名称：英語 Lecture (Linguistics)				
科目の概要：日本語 言語類型論の視点				
科目の概要：英語 Research Perspectives on Language Typology				
科目の目的： 言語類型論の基礎的な考え方や方法論を身につけることにより、諸言語を客観的にとらえる視点を養う。また、人間の言語にみられる類似性と相違点を理解することで、文化や歴史的発展や人間の認知能力など、言語と他に人間の活動との関連に対する科学的な視野を養う。				
学習成果・習得する技能や知識： <ul style="list-style-type: none"> 言語類型論における基礎的な考え方を理解する。 これまでの当該分野における研究成果の概要を把握し、各自が使用する、もしくは、研究対象とする言語の類型論的な位置づけについて科学的に考察できるようになる。 現在の言語類型論の方法に内在する問題点を理解し、将来の研究に反映させられるようになる。 				
成績評価方法・基準： 毎回のディスカッションにおける参加貢献度による。				
授業内容： 毎週、テキストを一章ずつ読みすすめ、その内容を確認する。次に、各自の言語ではどうなっているかを分析し、方法論上の問題点についてディスカッションを進める。				
日程： 週一回、全 15 回。ただし、曜日や時間等については、講師および受講生のスケジュールに合わせて調整する。				
実施場所： 国立民族学博物館大学院棟演習室				
使用言語： 日本語もしくは英語				

<p>使用言語： Japanese and/or English</p>
<p>その他使用言語： 各受講者の調査地の言語もしくは調査対象とする言語を考察の対象に加える。</p>
<p>準備学習： 以下のテキストの内容理解。(受講前の質問も受け付ける。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ <i>Language Files: Materials for an Introduction to Language and Linguistics</i>, 11th Edition. Department of Linguistics, The Ohio State University, 2011.
<p>関連科目・履修条件： 以下のテキストを履修・終了していること。(独学でもよい。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ <i>Language Files: Materials for an Introduction to Language and Linguistics</i>, 11th Edition. Department of Linguistics, The Ohio State University, 2011.
<p>教科書・必読書： 受講者の興味とレベルに応じて、以下のいずれかをテキストとして使用する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ Moravcsik, Edith A. 2013. <i>Introducing Language Typology</i>. Cambridge University Press. ■ Croft, William. 2001. <i>Radical Construction Grammar: Syntactic Theory in Typological Perspective</i>. Oxford University Press. ■ Whaley, Lindsay J. 1997. <i>Introduction to Typology</i>. Sage Publications, Inc. (邦訳 リンゼイ・J. ウェイリー (著)、大堀壽夫 (訳) 『言語類型論入門—言語の普遍性と多様性』岩波書店、2006.)
<p>参考書・その他の教材：</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 角田太作 『世界の言語と日本語 改訂版—言語類型論から見た日本語』くろしお出版、2009. ■ Jae Jung Song (ed). 2013. <i>The Oxford Handbook of Linguistic Typology (Oxford Handbooks)</i> Reprint Edition. Oxford University Press.
<p>備考： ・受講希望者は事前に担当教員に受講の可否について相談すること。 ・地域文化学・比較文化学の2専攻の学生のみ申請可</p>